

會學濟經學大國帝都京

# 經濟叢論

號一第 卷(十四第)

月一年四十和昭

經濟叢論 每月一日發行  
第四十八卷第一號 昭和十四年一月一日發行  
大正四年六月二十一日第三種郵便物認可

作田博士還曆記念論文集

(禁轉載)

目次

作田莊一博士肖像……………	卷頭
作田莊一博士稿「日本經濟學の正體」……………	一
日本的學問の文化史的意義及び基本的諸典型……………	文學博士 米田庄太郎……………三
東亞民族の形成……………	文學博士 高田保馬……………六
日本經濟史研究の發展……………	經濟學博士 本庄榮治郎……………五
理論學としての日本經濟學……………	經濟學博士 谷口吉彦……………四
産業組合の耕地管理……………	經濟學博士 八木芳之助……………三
印度に於ける國民的産業能率の遲滯性に就て……………	經濟學士 大塚一朗……………二
「日本的」なるものゝ意義及び探求に就て……………	經濟學士 中川與之助……………二

資本主義と支那事變……………經濟學士 柴田敬…一四二

明治時代農村手工業の消長……………經濟學士 堀江保藏…一六二

我國に於ける預金通貨統計の發達……………經濟學士 中谷實…一七六

保險思想の發展……………經濟學士 佐波宣平…一九三

歴史學派に於ける國民經濟の概念……………經濟學士 白杉庄一郎…二二一

日本共同體經濟學の建設者佐藤信淵……………經濟學博士 石川興二…二三七

國事資金法の提案……………經濟學博士 小島昌太郎…二四九

農山漁村財政の五箇年記録……………經濟學博士 汐見三郎…二六九

支那の社會成層……………法學博士 財部靜治…二八八

# 日本的學問の文化史的意義及び基本的諸典型

米田庄太郎

一 日本的學問の文化史的意義

二 日本的學問の概念の基本的諸典型

## 一 日本的學問の文化史的意義

近來我國に於ては、種々な意味にて我國獨特の或は獨自の日本的學問を建設せねばならぬと云ふ主張が、盛んに唱へられて來た。又かゝる日本的學問を建設しようとする種々な企てが、續々現はれて來た。併し夫れと同時に、かゝる主張や企ては國境のなき學問の眞義をよく了解しない、あまりに偏狹な排他的な思想にして、今や世界的に活動しつゝある日本國民の健實なる發展を阻害するものであるとして、之を一概に擯斥し排斥する人々も少なくない。私は此等の主張或は見解は學問論上から嚴密に批判的に考察すると、何れも學問全體に對しては正當でないが、併し學問の夫れ夫れの種類或は部類に於ては正當であると考へて居る。そうして後に日本の學問の學問論的基礎づけを、私の學問論上から論究する場合に、其のことを明かにしたいと思ふが、此處に今日盛んに唱へられて來た日本の學問なるものを一般的に考察しようとするに當つて、私が先づ第一に注目したいと思ふのは、今や種々なる意味にて日本の學問を建設する必要が、盛んに唱へられて來たこと其のことの深大なる文化史

的意義である。それで私は始め本論文を「日本の學問の學問論的考察」と題して、先づ日本の學問の建設の必要が近來盛んに唱へられて來たこと其のことの、日本文化史的意義及び世界文化史的意義を考究し、次に日本の學問の基本的諸典型の分類及び各典型の論理的構造、終りに其等の諸典型の夫れ夫れの學問論的基礎づけを論究するつもりで書き始めたのであるが、制限されたる紙數内に於て其等の三問題を、タトヒ簡單にせよ悉く論述することの甚だ困難なるを覺り、最後の問題の論究は後に別論文として發表することとしたのである。

却説今日我國に於て、種々な意味にて日本の學問が盛んに唱へ出され、又之を建設しようとする企てが續々勃興して來たことに就ては、政府や民間の篤志家が種々獎勵され助成されたことが與つて大に力あるは云ふまでもない。併し勿論それは唯一の理由でも亦根本的な理由でもなく、其の根柢には先づ日本文化史上の深大なる理由が儼存して居ると思はれる。要するに今や我國に於て革新運動として勃興しつゝある新日本文化建設運動の學問的基礎を確立する必要が、日本的學問の建設を要求するに至らしめたのであると思はれる。併し此處では其の日本文化史上の深大なる理由に就て一々詳しく論述する餘裕がないから、只其の最とも根本的な方面と思はれるものを、極簡單に論述するだけに止める。

本來優秀なる民族的素質及び能力と、萬世一系の皇室を中心として奉戴する独自の社會組織を具有する日本民族が、独自の文化を發展させつゝあつた時代に支那文化及び印度文化に接觸し來り、そうして其等の文化に於て勝れたる文化的長所の具有されて居るのを觀破するや、之を盛んに輸入し、全力を傾けて之を學び、よく咀嚼し吸收し同化して、(時には不知不識の中に其等の文化の短所をもとり入れて、種々な弊害を生じた場合もあるが、併し其等の場合

には其のことをよく自覺しつゝ直ちに其等の短所を排除して、遂に東洋文化の精華を發揮する獨白な日本文化を、千數百年間を通じて發展させて來たのであるが、然るに近代に至つて近代的西洋文化に接觸し來り、そして又其の文化が種々の方面に於て傳來の文化よりも勝れたるものを具有するを觀破するや、さきに支那文化及び印度文化を輸入して之を學べる場合に於けると同様に、全力を注いで其の長所を學び、よく之を咀嚼し吸收し同化して、實に驚く可き程急速に近代的發達を成し遂げ、日清戦争日露戦争及び世界戦争を経て、世界の五大強力の一と認められるまでの状態に到達したのであるが、更に其後益々大なる近代的發達を成し遂げ、遂に最近の世界の形勢に於て見られるが如くに、少なくとも國防的武力的及び經濟的には歐米の最大強國をも壓迫するに至つたのである。

さればかゝる時代或は階段に到達するに當つて、日本民族が自己の優秀なる民族的素質及び能力と、固有の又特有の社會組織の眞義を改めて深く自覺し、さきに支那文化及び印度文化の長所を吸收し同化する爲めに全力を傾けて之を學べる際、不知不識の中にとり入れた其の短所を自覺的に斷然排除して、獨自の日本文化を發達させたのと同様に、近代的西洋文化の長所を吸收し同化する爲めに全力を盡して之を學べる際、ヤハリ不知不識の中にとり入れた其の短所を、今や自覺的に斷然排除して獨自の新しき日本文化を建設する爲めに、革新運動を起して大に活動して來たのは當然であると思はれる。然るに今かゝる新しき日本文化を建設する爲めには、夫れに相應しき學問的基礎を確立するものとして、日本的學問の建設が痛切に要求されてくるのも是れ亦當然である。かくて私は今日我國に於て見るが如くに、日本的學問建設運動が大いに勃興して來たのであると信するのである。

私は甚だ簡單ながら以上述べし如くに、日本文化史上から考察して、我國の新文化建設運動が近來勃興し來れ

る根本的理由を解釋し、先づ之れに深大なる日本文化史的意義を認め、次にかゝる新文化建設の學問的基礎を確立するものとして、日本の學問建設運動にヤハリ深大なる日本文化史的意義を認めようとするのである。然るに今汎く世界の諸國民の今日の文化的社會的形勢を大觀すると、我國の新日本文化運動は日本文化史上から考察して、上に述べしが如き深大なる文化史的意義を有するに止まらず、更に世界文化史上に於て重大なる一般的意義を有すると同時に、尙ほ又特殊な意義をも有するものであることが、明かに洞察されると思はれる。と云ふのは今や西洋諸國民間にありても、重大なる世界的な新文化運動が勃興して居るのであるが、我國の新文化運動は其の世界的な新文化運動と一般的に氣脈を通じ、大體上同一の方向に進んで居ると云ふ點に於て、世界文化史上一般的意義を有すると同時に、日本民族精神の特性を發揮して其の世界的な新文化運動に特殊な貢獻をなしつゝあると云ふ點に於て、世界文化史上特殊な意義を有すると思はれるからである。

抑々近代的西洋文化は其の發達の殆んど宿命的結果として、世界戦争を惹起したと思はれるので、今日から考へると其の挑發者としての責任は、特に何れの國民にも歸せらる可きものでなく、強いて其の責任者を求むれば、夫れは近代的西洋文化の發達其物であると云はねばならないかと思はれる。併し夫れはとにかくとして、世界戦争後西洋諸國民中の若干の強國民は、近代的西洋文化の繼續的發達によりて、種々甚大な困難に遭遇しつゝも、尙ほ持てる國としての特權によりて大體上繁榮を持續して居ると思はれるのであるが、併し然らざる國民は其の民族的優秀性に拘らず、近代的西洋文化の發達が其のまゝに放任される以上、其のまゝで破滅するか、又は今日露西亞共產主義社會に於て見られるが如き状態に墮落して破滅するか、何れにしても破滅の運命を免れ得ない

1) (但し其等の西洋諸國民の代表者たる英米佛等の諸國民に於ても、今や the looming shadow of fascism が現はれ、何時ファシズム運動が勃發するかも知れない傾向の看取されることは、之れに反對して居る知名な政治學者や經濟學者さへも承認して居るのである。)

状態に陥つて來た。かくて其等の諸國民は大に近代的西洋文化及び露西亞共產主義を排撃して、新しき文化を建設する爲めに必死の運動を起して來たのである。そうしてかゝる新文化運動を創始し指導して居るのは、云ふまでもなく伊太利及び獨逸の二國民である。されば其等諸國民の新文化運動は近代的西洋文化及び露西亞共產主義に對する態度に於て根本的に相一致し、共同の方針に於て邁進して居るのであるが、我國の新文化運動もヤハリ近代的西洋文化及び露西亞共產主義に對する態度に於て、根本的に其等の諸國民の新文化運動と一致して居る。かくてさきに日獨伊三國間に防共協定が作られたのであるが、今や更に進んで文化協定が作られるに至つたのである。吾々は只此等の重大事實を表面上から見ただけでも、我國の新文化運動は如何に獨伊の新文化運動と根本的に氣脈を通ずるものであり、かくて只日本文化史上深大なる意義を有するだけでなく、更に世界文化史上重大なる意義を有するものであることを明かに覺り得るのである。尙ほ私は我國の新文化運動は、此の如くに世界文化史的意義を有するものであることによりて、今や建設せんとする東亞協同體の基本的文化となり得るもの、又なる可きものであることが明かに了解されると思ふのである。

併し獨伊の新文化運動は、近代的西洋文化及び露西亞共產主義に對して根本的に相一致し、共同の方針に於て進んで居るとしても、兩國の國體國情及び歴史等が種々異なつて居るが爲めに、詳細な點に於ては種々なる差異を呈し、夫れ夫れ特色を發揮して居るのであるから、其の國體國情及び歴史に於て、獨伊の何れとも異なつて居る我國の新文化運動が、兩國の夫れと種々異なる點を有して居るのは當然であつて、又そうある可きであると思はれる。私は二十數年前に我國に於て社會運動が勃興し始めた際、我國の社會運動は西洋諸國の社會運動と大

體上氣脈を通ずる處があつても、あくまでも我國の國體國情及び歴史に適應する、日本國民の獨自な國民的社會運動であらねばならぬことを強調したのであるが、今日の新文化運動建設に對しても同じことを強調したいと思ふ。要するに私は我國の新文化運動は獨伊の夫れと大體上氣脈を通ずるものであるから、夫れから種々な刺激を受け、又種々教へられる處があるとしても、あくまでも日本民族独自の民族的な新文化運動として發達す可きものにして、そうして又かゝる發達を成し遂げることによりて、新文化の世界的發達に特殊な貢獻をなし、かくて世界文化史上特殊な意義を有するものとなることを確信して居るのである。されば我國の新文化運動者中、獨伊の新文化運動を其の儘に我國に輸入しようとする様な人々が若しあるとすれば、其等の人々は右に述べしことに特に注意せられんことを切望する。

尙ほ私は今日我國及び歐洲諸國に於て發達しつつある新文化に就て、種々述べたいことがあるが、紙面の餘裕がないから只新文化と近代的西洋文化との關係、及び新文化運動に加へられて居る一の非難に就て、少しく述べるだけに止める。

今近代的西洋文化は以前の諸文化に比して、種々優秀なる諸特性を有するものであることは、近代の西洋諸國民が近代的文化の發達によりて、其の驚く可き大發達を成し遂げたのであること、又我國も根本的には日本民族特有の國體精神と、優秀なる民族的素質及び能力の活動によることは云ふまでもないが、しかも直接には近代的西洋文化を輸入し、よく其の優秀なる諸特性を咀嚼し同化することによりて、今日見るが如き世界を驚かす大發展を成し遂げたのであること等によりて、明かに證示されて居ると思はれる。されば今日の新文化運動は我國にあり

ても亦西洋諸國にありても、一般的には近代的西洋文化の排斥から出發し、又其の排斥的態度を常に保持して居るが、併し決して其の全體を悉く排斥するのではなく、其等の優秀なる諸特性中、其の發達が極端に走せて種々なる弊害を生ぜるものは、勿論斷然之を排斥し、又は適當に改造しようとするが、併し然らざるものは之を排斥するどころか、益々發達させる爲めに大に努力して居るのである。例へば自然科学及び自然技術オウヂテヒニク或は自然工學の發達は、近代的西洋文化の優秀なる一大特性にして、そうして夫れによりて國民の經濟的生産力や、交通運輸の方法や、保健衛生上の殊に國防上の施設及び技術などが、未曾有の大なる發達をなし遂げたのであるが、今日に於ても其等の諸方面の益々大なる發達は、何れの文化國民にありても甚だ肝要なるものであるから、新文化運動も、云ふまでもなく、自然科学及び自然工學の發達に大に努力せねばならないのである。

終りに新文化運動に加へられて居る一の非難に就て少しく述べて置くが、其の非難と云ふは即ち新文化運動は一の進歩的或は前進的な文化運動ではなくして、一の復古的運動であると云ふ非難である。併し今汎く世界の文化史を考察すると、私は何れの國又は何れの時代にありても、大なる新文化運動は一般に其の根本的一方面に於て、復古的性質或は傾向或は要素を具有するものであることが發見されると思ふ。此處では其の社會學的理由には觸れずに、只若干の事實を指示するだけに止めるが、例へば近世歐羅巴に於ける最初の新文化運動は、夫れがルネソンスと稱せられて居るほど、復古的性質或は傾向を著しく現はして居るものであり、又宗教改革運動は原始基督教に復歸することを其の根本的一動機となすものであり、又佛蘭西革命は一面に於て古代羅馬の政治的社會的文化を復活させようとするものであり、又社會主義文化運動は一面に於ては、原始共同社會の文化を回復し

ようとするものである。そうして今日の伊太利の新文化運動としてのフアスシズモ運動は、一面に於ては古代羅馬大帝國の復活を目標とするものにして、又今日の獨逸に於ける新文化運動としてのナチス運動は、根本的にはゲルマーン民族の血と精神との復活を目標とするものであると思はれる。我國にありても、大化の改新は先づ建國の精神を大に強調して、支那文化及び印度文化の長所を同化することを目標とするものにして、明治維新は先づ大化改新の精神を大に復興させて、近代的西洋文化の長所を同化することを目標とするものであつたと思はれる。されば昭和の新日本文化運動としての今日の革新運動が、復古的性質或は傾向を本來具有して居るのは、決して非難す可きことでも亦怪む可きことでもなく、實に當然であるのである。

甚だ簡單ながら私は以上述べし如くに考へて、今日我國に於て勃興しつゝある新日本文化建設運動に、深大なる日本文化史的及び世界文化史的意義を認め、そうして夫れによりて、今日盛んに唱へられて居る日本的學問なるものは、つまりかゝる新日本文化運動の學問的基礎を確立しようとするものであるとして、ヤハリ之れに同様に深大なる文化史的意義を認めようとするのである。然らば其の日本的學問なるものは、今日實際上如何なる學問として建設されつゝあるか。

## 一一 日本的學問の概念の基本的諸典型

今普通一般の學問論の見解に従へば、總べて眞實なる眞理は普遍的世界的なるものであつて、國民によりて民族によりて異なるものでなく、かくて日本的眞理とか、獨逸的眞理とか、英國的眞理とか云ふが如き眞理は存在

しない。一國民或は一民族に於て眞理と認められるものが眞實なる眞理である以上、夫れは何れの他の國民、何れの他の民族に於てもヤハリ眞理として承認さる可きものである。そうして眞實なる學問はかゝる眞實なる眞理、即ち普遍的世界的なる眞理を探究し發見することを目的となし、生命とするものであるから、學問には國境はなく、學問は國によりて異なる可きものではないのである。かくて我國に於てもかゝる普通一般の學問論上の見解或は學問概念からして、日本の學問の概念を頭から否定し排斥する人々が少なくないかと思はれる。嘗つて獨逸の著名なる物理學者が、確かプランクであつたかと思ふが、獨逸物理學なるものを唱へて他國の物理學者に冷笑されたと云ふ様な話がある。

今眞實なる眞理は總て普遍的世界的である可きものにして、そうしてかゝる眞理を探究し發見するものが、即ち眞實なる學問であると見る普通一般の學問論の學問概念は、之を私の學問論から批判すれば、如何程の價値を有するものであるか、即ちどれだけが眞實にして、どれだけが誤つて居るかは後に論述するが、此處では假りに夫れは完全に正當なる學問概念であると認めて置くとしても、尙ほ私は種々なる意味に於て民族的學問の概念、かくて日本の學問の概念が構成し得られると思ふ。例へば獨逸に於ては哲學は一般に愛好され尊重され、之を研究する人々が多く、かくて哲學は同國に於て大に發達して居るから、哲學は屢々獨逸的學問と稱せられて居る。又米國では近來政府や民間の篤志家の獎勵及び助成によりて、社會學の研究が大に隆盛を致して來たから、今や社會學は亞米利加的學問 the American Science と稱せられて居る。又佛蘭西ではジュールケム派の社會學が同國の社會學界を風靡して居るから、同派の社會學が佛蘭西社會學と稱せられて居るのである。かゝる例は枚舉に暇が

ないからこれくらひに止めて置くが、要するに學問は本來普遍的世界的なものであるとしても、尙ほ右に述べしが如き色々の意味にて國民的或は民族的學問の概念は正當と見做し得られるのである。そうして其等の意味にて何れかの學問の研究が何れかの國民に於て特に大に發達することは、世界の學界にとつては甚だ有益なことであり、又其の國民にとつては大に名譽なことであると思はれる。されば私は我國に於ても右に述べし何れかの意味にて、何れかの學問が日本的學問として特に大に發達することをかねてから希望して居るのであるが、近頃新聞紙の傳へる處によれば、最近の物理學上の一大發見として世界的に認められたものは、大阪帝大助教授湯川博士の新微粒子の發見であると云ふ。そこで私は此の際我國の多數の物理學者が、湯川博士と協力して専ら新微粒子の研究に力を注ぎ、又政府も民間の篤志家も共に力を合せて其の研究を獎勵し助成し、かくて其の研究が我國に於て大に發達して遂に世界の物理學者がユークン學を日本的物理學、日本の學問と稱する日の來らんことを切望するのである。

湯川博士の新微粒子の發見は本年の萬國物理學會の大會に於て確認され、同博士の姓に因みてユークンと命名されたと聞いて居たが、尙ほ最近に新聞紙の傳へる處によれば、米國の物理學者中に之をベリトンと命名しようとする人が現はれ、其の命名に就て歐米の物理學者間に議論が起つて居ると云ふ。尙ほ湯川博士の發見が今日の物理學上如何に重要な意義を有するかは、大阪帝大教授菊地博士が大阪毎日新聞紙上に公にされた一文によりて、我々専門外のものも其の大意を了解することが出来ると思ふ。

私は右の如き意味に解される日本の學問の概念の典型に對して、與ふ可き適當な特殊な名稱を思ひ當らないから、便宜上假りに之をA典型の日本の學問概念と稱して置く。但し此の典型の日本の學問は上に述べし如く、實

實際上では重要な意義を有するものであるが、併し學問の本質上から見ると、第二的な意義しか有しないものである。此のことに就ては後に述べるが、それはとにかくとして今日我國に於て特に日本的學問と稱せられて居るものは、右のA典型の如きものではなく、夫れよりも更に一層嚴密なる或は特異なる意味にて、日本的學問と稱せらる可きものである。又そうであるに於て始めて新日本文化運動の學問的基礎となり得るのである。然らばかゝる意味に於ての日本的學問の概念は如何に規定さる可きであるか。

今此の問題を完全に又十分に解決する爲めには、日本的學問一般に關して、又日本何々學とか、日本學としての何々學とか云ふ題名で、少なくとも今日までに公にされて居る總ての著書及び論文を、一々悉く調らなければならぬのであるが、併し私は老齡の爲めか最早そうするだけの根氣がなくなつたから、只今日までに私の目に着いた著書及び論文だけを材料とし、夫れに推測を加へて試験的に構成せる日本的學問の基本的諸典型を、簡単に説述するだけに止めて置く。されば讀者諸氏が其の不完全なる處は修正され、又其の不十分なる處は補充されることを、私は特に御願ひしたのである。

今日我國に於て日本的學問の建設を主張する人々の日本的學問の概念を考察するに當つて、吾々の先づ注目すべきは、此の場合に其等の人々が學問と云ふは、一切の學問を意味するものではなく、特に一定の部類の學問だけを意味するものであると云ふことである。要するに其等の人々が特に日本的學問として建設しようとするのは、哲學及び文化的或は精神的或は社會的學問(此の場合に一般に科學と云ふ言葉が用ひられて居るが、私は後に述べる理由によりて學問と云ふ言葉を用ひるのである。)と稱せられて居るもの、ナツアテヒニク自然科學及び自然技術學或は自然工學は除外されて居るのである。是れ

つまり自然科学及び自然工學の驚嘆す可き發達は、さきにも述べし如く、以前の文化に比して近代的西洋文化の一大特徴をなすものであるが、併し夫れは今や建設されつゝある新文化に於ても同様に大に重要視されて居るもの、否な益々重要視さる可きものにして、そうして世界的に承認される實驗的眞理、何れの國に於ても實現される普遍的眞理を發見し確立することを目標とするものとして、國民によりて民族によりて異なり得ないものであるからである。若し自然科学及び自然工學に於て民族的學問なるものが建設されるとすれば、夫れは上に私がA典型の日本の學問と稱せるが如き、實際的には重要な意義を有するものであるが、學問論的には第二次的な意義を有するものだけである。但し文化的或は精神的或は社會的學問に於ても、私の學問論に於て強調する如く、科學と哲學との區別が嚴密に適用され、文化哲學或は精神哲學或は社會哲學から判然區別される、文化科學或は精神科學或は社會科學が建設されるに至らば、かゝる科學は夫れに基いて建設される技術學或は工學(即ち精神技術學或は工學とか、人間技術學或は人間工學とか稱せらる可きもの)と共に、自然科学及び自然技術學或は自然工學と同様に、新文化に於ても世界的普遍的學問として發達するであらうと思はれるが、併し今日ではまだかゝる意味に於ての文化科學或は精神科學或は社會科學は建設されて居ない。そうして今日通例文化科學とか精神科學とか社會科學とか稱せられて居るものは、學問論的に嚴密に吟味すると、本質的には文化哲學、精神哲學、社會哲學に外ならないものか、又は之れに種々の度合に於て科學的研究を混合する混合的學問かであることが發見されるのである。さればかゝる性質を有する今日の文化科學、精神科學、社會科學にありては、民族的な學問は當然成立し得る、否な成立せざるを得ないのである。現に今日我國に於て日本の學問として盛んに建設されつゝあるのは、主として國家學とか、

國法學とか、私法學とか、政治學とか、經濟學とか稱せられて居る處の、もろ／＼の混合的學問としての文化科學、精神科學、社會科學に於てである。

甚だ簡單ながら以上述べし如くに、私は今日我國に於て盛んに主張されて來た日本の學問の如き民族的學問が、正當に建設し得られる學問範域を先づ學問論的に大體上見定めて置いて、是より今日主張されて居る日本の學問の概念を、學問論上から見て一定の諸典型に分類したいと思ふのであるが、制限されたる紙面が残り少なくなつたから、極簡單に述べるに止めざるを得ない。そうして私は少なくとも今日までの處では、學問論上から見たる嚴密なる意味に於ての日本の學問の概念は、根本的には大體上三つの典型に分類し得られると考へ、さきに挙げし廣い意味での日本の學問の一典型を、便宜上A典型と稱せるに準じて、其等の三典型をヤハリ便宜上B典型、C典型及びD典型と稱して置く。

日本の學問の概念のB典型、今日我國に於て盛んに唱へられて居る日本の學問概念の諸典型中最とも基本的なるもの、或は最とも基本的な日本の學問概念の典型として、先づ私が大に重要視したいと思ふものは、此處に便宜上B典型と稱するものである。夫れは即ち主として日本書紀、古事記等の我國の古典に於て學ばれる、日本民族固有の又特有の世界觀的信念或は思想を、哲學的に精練し展開して建設される一切の日本哲學を總括する一典型にして、私は一切の日本の學問なるものは、かゝる意味に於ての日本哲學を根本的基礎として建設さる可きものであると確信し、かくて又一切の日本の學問の建設に於ける最とも肝要なる基礎工事は、かゝる意味に於ての日本哲學の建設であると確信して居るのである。併し此處に吾々の大に注目す可きものがある。夫れはかゝる

意味に於ての日本哲學の必要は、今日我國に於て新日本文化建設運動が勃興するに當つて始めて感じられて來たのではなく、古代に於て支那文化及び印度文化が始めて我國に輸入され、日本民族が其等の文化の精華を吸収し同化して、其等の文化に對して独自の新文化を建設しようと努力し始めた時代に於て既に感じられ、且つかゝる意味に於ての日本哲學が實際に建設されて居たと云ふことである。要するに支那哲學及び印度哲學によりて、日本民族固有の又特有の世界觀的信念或は思想を哲學的に精練し展開して、日本哲學を建設しようとする思想運動は、支那文化及び印度文化が始めて我國に輸入された時代から既に始まつて居たのである。そうして夫れは當時我國独自の新文化建設の最とも根本的な學問的基礎を確立する爲めに、實際上必要缺く可からざるものであつたと思はれるのである。吾々は此の我國の文化史上の一大事實をよく了解すれば、今日我國に於て新文化建設運動の勃興するに當つて、其の最とも根本的な學問的基礎として、同様な意味に於ての日本哲學の建設が如何に必要であるか、又之を實際に建設することが如何に肝要であるかを、よく了解することが出来るのである。併し此處に又吾々の注目せねばならぬことがある。

今明治時代に於て西洋哲學が盛んに輸入されるまでは、我國の思想界を根本的に支配して居た哲學と云へば、即ち支那哲學及び印度哲學であつた。されば日本民族固有の又特有の世界觀的信念或は思想を哲學的に精練し展開すると云へば、夫れはつまり支那哲學的に、又は印度哲學的に、又は如何様にか兩者を結合して之を精練し展開することを意味せざるを得なかつた。かくて本居及び平田の二大家が現はれるまでの日本哲學と云へば、主として支那哲學的にか、又は印度哲學的にか、又は兩者を結合してか、哲學的に精練され展開されたるものであつ

たと思はれる。そうして本居及び平田の二大家が現はれて、日本民族固有の又特有の世界觀的信念或は思想を、支那哲學的又は印度哲學的解釋から一切解放して、純眞なるあるがまゝの意味にて闡明し發揮する爲めに努力されたことは、新しき日本哲學の發達に對する大なる貢獻であつたと思はれる。

併し我國に於ける今日の新日本文化建設運動の、根本的な學問的基礎としての日本哲學としては、傳來の日本哲學を其のまゝに復活させるだけでは不充分にして、更に新しき日本哲學を建設することが肝要であると思はれる。是れ明治時代から西洋哲學が盛んに輸入され、哲學と云へば直ちに西洋哲學を意味するものと解せられる程、今日の高等教育を受けた日本人の哲學的思考は、西洋哲學的に薰陶されて居るが爲めに、西洋哲學的に構成され展開されたる日本哲學にあらずば、其等の人々の哲學的要求を十分に満足させることが出來ないと思はれるからである。さればとて何れの西洋哲學を持つて來ても、其のまゝに運用するだけでは到底日本民族固有の又特有の世界觀的信念或は思想を、其等の人々に充分な哲學的満足を與へ得る様に、哲學的に精練し展開することは出來まいと思はれる。かくて夫れが爲めには先づ今日の我國の卓越せる哲學者がよく西洋哲學を咀嚼し、其の眞髓を擲んで之を日本人としての自己に同化し、日本化されたる或は日本的な西洋哲學を建設することが肝要である。そうしてかゝる日本化されたる日本的な西洋哲學として、今日吾々に與へられて居るのは西田哲學である。私は今日西田哲學が大に歡迎され尊崇されて居るのを見て、日本化されたる或は日本的な西洋哲學に對する今日の日本人の要求が、如何に切實であるかを察知することが出來ると思ふ。又夫れは自己の民族的優秀性を改めて深く自覺し來れる今日の日本人にありては、當然であると思はれる。尙ほ今や西田哲學以外にも日本化されたる

或は日本的な西洋哲學が續々産出される傾向の見ゆることは、我國の哲學界の爲めに大に賀す可きことと思はれる。併し日本化されたる或は日本的な西洋哲學は、其のまゝではまだ上に述べしが如き意味に於ての日本哲學ではない。されば私は更に進んで、日本化されたる或は日本的な西洋哲學によりて、日本民族固有の又特有の世界觀的信念或は思想を、哲學的に精練し展開し、我國固有の又特有の國體の本義を益々發揮して、新日本文化運動の根本的な學問的基礎を確立する新日本哲學を建設する人々の現はれることを、日夜切望して居るのである。

私がB典型と稱するものに就ては尙ほ述べたいことが多々あり、又以上述べしことに就ても尙ほ少し詳しく述べたいこともあるが、此處では其の餘裕がない。尙ほC典型及びD典型に就ても、やはり極簡単に述べるだけに止めざるを得ない。

日本の學問の概念のC典型、私が日本の學問の概念のB典型と稱するは、上に述べし處によりて知られる如く、最とも基本的な日本的學問としての日本哲學の諸概念を包括するものであるが、之れに對してC典型及びD典型と稱するは、今日も尙ほ通常一般に文化科學とか精神科學とか社會科學とか稱せられて居る處の、哲學と科學との混合的學問に於ける日本の學問の二つの典型を意味するものである。先づC典型に就て述べるが、要するに私は右に述べしが如き意味に於ての文化科學或は社會科學に於て、先づ絶對的必然的普遍的であると信じられる一定の一般的な哲學的眞理(但し私は私の學問論に於てかゝる哲學的眞理と、相對的確率的普遍的であると認め)を根本的原理として措定し、之を社會的文化的事實の科學的研究によりて論證しつゝ、一定の一般的學説を作り上げ、そうして其の學説の眞義或は本義は、日本民族固有の又特有の一定の世界觀的信念或は思想を、如何様にか哲學的に

展開せる特殊な日本哲學的原理によりて、最もよく發揮され實現されるものとして、其の文化科學或は社會科學を建設しようとする、日本的學問の諸概念を包括する一典型を、C典型と稱するのである。そうして私は私が作田博士の統營經濟學の概念は、經濟學に於ける日本的學問即ち日本經濟學の此の典型の論理的構造を、よく表現して居るものと考へるのであるが、尙ほ我が石川博士の新日本經濟學の概念も、大體上此の典型中に包括することが出来ると思ふ。此の典型に就ても尙ほ色々論じたのであるが、最早其の餘裕がなくなつたから、只右に述べし如くに其の一般的規定を述べるだけに止める。更に終りに述べるD典型に就ても、やはり同じ理由によりて只其の一般的規定を述べるだけに止めざるを得ない。

日本的學問の諸概念のD典型、私が此處にD典型と稱するは、要するに上に述べし意味に於ての何れかの文化科學或は社會科學に於て、先づ日本民族固有の又特有の世界觀的信念或は思想を、如何様にか哲學的に精練し展開して確立されたる、特殊な日本哲學的原理を適用して一定の學説を作り上げ、其の學説は其の文化科學或は社會科學に於ける唯一の又は最高の眞理を發揮するものとして、其の文化科學或は社會科學を建設しようとする、日本的學問の諸概念を包括するものである。かくて此の典型の論理的構造に於ける構造要素の排列の順序は、C典型の論理的構造に於ける構造要素の排列の順序を轉倒して居るのであるが、併し日本哲學的原理を最高原理として、文化科學或は社會科學を建設しようとする終局の目的に於ては、兩典型は全く相合致して居るのである。

私は以上論述し來れる如くに、日本的學問の基本的諸典型を大體上分類したる後、其等の諸典型と其等の諸典型を學問的基礎として建設される新文化との關係を、一般的に考察したいつもりであつたが、最早紙面の餘裕が全くなつたから、他日本雜誌に於て公にする他の論文に於て之を試みたいと思ふ。又さきに述べし如く私は最後に其等の日本的學問の基本的諸典型が、私の學問論上から見て、如何に學問論的に基礎づけられるかを論究したのであるが、是れも已むを得ず他日の論文に譲る。尙ほ終りに、本論文に於て私の立てた日本の學問の基本的諸典型の分類は、全く試験的なものであるから、讀者諸氏の御示教を仰ぎて之を完成したいのが、私の念願であることを重ねて申上げて置く。(昭和十三年十一月二十五日)